

実験動物感染症対策委員会からのお知らせ

実験動物感染症対策委員会
委員長 喜多正和

日本実験動物学会の「マウス・ラット感染対策委員会」は委員会の名称を「実験動物感染症対策委員会」と改称し、新たな体制で活動を開始することになりました。従来の委員会においては、実験動物の中で最も使用頻度が高いマウスとラットの感染症を対象として活動をして参りましたが、本学会には感染症を取り扱う委員会が他に存在しないため、委員会において、すべての実験動物の感染症を対象として活動することの是非が検討された結果、今回の名称変更となりました。また、委員会の活動計画として、感染症関連情報の会員への提供を重要項目とすることが決定され、その活動の一環として、実験動物ニュースに「実験動物感染症の現状」を連載することに致しました。なお、昨年11月11日には、会員MLにより、ニホンザル疾病対策第3者委員会より公表された「ニホンザル血小板減少症の原因究明についての報告」をいち早く情報提供致しましたが、今後とも、実験動物ニュースと会員MLにより、会員の皆様に有用な情報を提供させて頂きたいと思っております。

連載第一弾として、「マウスノロウイルス」を池先生にご執筆頂きましたが、今後は「マウス肝炎ウイルス」、「サルレトロウイルス」、「LCMV」、「パルボウイルス」、「Bウイルス」、「ハンタウイルス」、「ボルデテラ属」、「ヘリコバクター属」、「パストレラ属」、「マイコプラズマ属」、「クロストリジウム属」などを取り上げる予定であります。なお、会員の皆様から「実験動物感染症の現状」シリーズに取り上げることを希望される感染症がございましたら、可能な限り、ご要望にお答えしたいと思いますので、ご遠慮なく委員長までご連絡下さい。